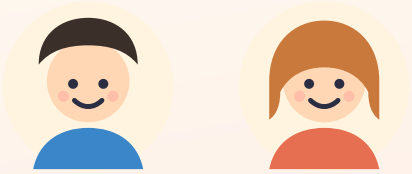
Season 4 | No.39



講談・浪曲

語りとふしで物語を届ける芸



全30ページ | 無料教材

一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の使い方

1 見て・ふれて・感じる
写真や実物、動画でも確かめてみましょう。身近な行事や食べ物の中にも、日本文化はたくさんあります。

2 「なぜ？」を考える
行事やしきたりには、それぞれ意味や願いがこめられています。由来を知ると、ぐっと面白くなります。

3 「やってみよう」で体験する
答えは30ページにあります。家族や地域の人に話を聞くのもおすすめです。地域によるちがいも楽しみましょう。



Ken（ケン）
日本の中学生。地元のお祭りが大好き。



Emma（エマ）
カナダから来た留学生。日本文化を勉強中。

もくじ

語り芸の入り口 3〜4
講談を知る 5〜6
浪曲の世界 7〜10
語り芸を味わう 11〜15
確かめよう 16〜19
くらべる・疑問 20〜22
おさらい 23〜25
つたえる 26〜28
まとめ 29〜30

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 1

講談ってなに？

講談がどんな芸能かを知りましょう。

講談は、講談師が机の前にすわり、歴史上の出来事や物語を、調子をつけて語り聞かせる話芸です。
軍記物や人情物など、さまざまな物語が演目として語られてきました。



ポイント

- 1人の講談師が、何人もの登場人物を声や調子を変えて演じ分けます。
- 落語とは似ているようで、語り方や題材にちがいがあります。

やってみよう

1. 講談ということばを聞いたことがあるか、家族に聞いてみよう。

ワンポイント 講談は、動画サイトなどで実際の高座の様子を見ることもできます。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 2

講談の歴史

講談がどのように生まれ、広まったのかを学びます。

講釈

こうしゃく／kōshaku

講談の古いよび方

高座

こうざ／kōza

演者が芸を披露する一段高い席

ポイント

- 講談は、江戸時代に軍記物などを人々に語り聞かせたことから発展したといわれています。
- もとは「講釈」とよばれ、明治時代ごろから「講談」の名が広まったといわれています。

やってみよう

1. 江戸時代について知っていることを1つ書いてみよう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

書いて覚えよう

Lesson 3-4

張り扇と釈台・講談の語り口

講談で使う道具と、独特な語り方を学びます。

張り扇

はりおうぎ／hari-ōgi

紙をはった扇子。釈台をたたいて調子をとる

釈台

しゃくだい／shakudai

講談師の前に置かれる小さな机

講談の語り口の特徴

- 張り扇で調子をとる
- 歯切れのよい語り
- 地の文と人物のせりふを使い分ける
- 聞き手を物語に引きこむ間

ポイント

- 張り扇で釈台をたたく音は、場面の切りかえや盛り上がりを伝える合図になります。
- 講談師は、語りの調子や速さを変えて、物語に緊張感を生み出します。

やってみよう

1. 張り扇の音を、動画などで聞いてみよう。＿＿＿＿＿＿＿＿

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson
5-6

軍記物・人情物

講談の代表的な物語のジャンルを学びます。

ジャンル	内容
軍記物	合戦や武将の活躍をえがく物語
人情物	町の人々の暮らしや心の動きをえがく物語

ポイント

- 軍記物では、武将の決断や合戦の様子が、力強い語り口で語られます。
- 人情物では、家族や仲間への思いやりなど、人と人との関わりがえがかれます。

やってみよう

1. 軍記物と人情物、どちらを聞いてみたいか書いてみよう。＿＿＿＿＿＿＿＿

書いて覚えよう

Lesson 7

浪曲ってなに？

浪曲がどんな芸能かを知りましょう。

浪曲は、三味線の伴奏に合わせて、物語を節（メロディー）と語りで聞かせる話芸です。「浪花節」ともよばれます。
1人の浪曲師が声だけで物語を歌い語り、三味線の音色が場面をいろどります。



ポイント

- 浪曲は、講談や語り物の芸能から影響を受けて生まれたといわれています。
- 明治時代から昭和のはじめにかけて、多くの人に親しまれました。

やってみよう

1. 「浪花節」ということばを聞いたことがあるか、家族に聞いてみよう。

書いて覚えよう

Lesson
8-9

浪曲と三味線・節と啖呵

浪曲を支える音と、語りの構成を学びます。

曲師

きょくし／kyokushi

浪曲師の語りに合わせて三味線をひく人

啖呵

たんか／tanka

浪曲の中の、せりふで語る部分

浪曲の2つの要素

節（メロディーで歌う部分）　啖呵（せりふで語る部分）

節と啖呵を交互に重ねることで、物語に感情の起伏が生まれます。

ポイント

- 曲師は、浪曲師の語りの間や気持ちに合わせて三味線をひきます。
- 節と啖呵の切りかえは、浪曲師と曲師の呼吸によって生まれます。

やってみよう

1. 歌うように語る部分と、せりふで語る部分のちがいを考えてみよう。

_____

書いて覚えよう

一般社団法人文化芸術支援協会｜講談・浪曲　個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 10

浪曲の歴史

浪曲がどのように広まったのかを学びます。

ポイント

- 浪曲は、明治時代に人気を集め、昭和にかけて多くの寄席やラジオでも親しまれたといわれています。
- 時代とともに人気の移り変わりはありましたが、今も受け継がれている芸能です。

やってみよう

1. ラジオと今のインターネットの共通点を考えてみよう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ワンポイント 浪曲は「浪花節」ともよばれ、ここから「浪花節的（人情に厚い）」という言い方が生まれたといわれています。

書いて覚えよう

Lesson 11

有名な演目

浪曲や講談の代表的な演目を知りましょう。

演目の例

太閤記（講談）　三国志（講談）　忠臣蔵（講談・浪曲）　清水次郎長伝（浪曲）

歴史上の人物や出来事をもとにした演目が多くあります。

ポイント

- 同じ演目でも、演者によって語り口や場面の見せ方がちがいます。
- 演目の名前を知っておくと、寄席や動画で見るときに楽しみやすくなります。

やってみよう

1. 気になる演目を1つえらんで、どんな話か調べてみよう。

書いて覚えよう

Lesson
12-13

講談と落語のちがい・語り芸の魅力

講談と落語のちがいと、語り芸の魅力を学びます。

講談

読み物・歴史を語る

- **釈台の前で語る**
  張り扇で調子をとる
- **軍記物・人情物が中心**
  地の文を多く語る

落語

こっけいな話が中心

- **座布団の上で語る**
  扇子と手ぬぐいを使う
- **会話中心の物語**
  落ち（サゲ）で終わる

ポイント

- どちらも1人で何役も演じ分ける話芸ですが、道具や物語の中心がちがいます。
- 語り芸は、声だけで場面や人物を思い浮かべさせる魅力があります。

やってみよう

1. 講談と落語、どちらのちがいがいちばん印象に残ったか書こう。

_____

書いて覚えよう

Lesson
14-15

声で情景を描く・寄席と講談

声だけで景色を伝える技と、寄席について学びます。

寄席

よせ／yose

落語や講談などを見に行く演芸場

間

ま／ma

語りの中の、ことばとことばの間の時間

ポイント

- 講談師は、声の高さや速さ、間の取り方で、合戦の様子や人の気持ちを描き出します。
- 寄席では、講談・落語・浪曲などさまざまな話芸を1つの場所で楽しめます。

やってみよう

1. 声だけで何かを表現するとしたら、何をしてみたいか考えてみよう。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 16

現代の講談師

講談が今も受け継がれていることを学びます。

ポイント

- 講談は、今も多くの講談師によって、寄席や動画などさまざまな場で語り継がれています。
- 新しい題材に挑戦する講談師もおり、伝統と新しさの両方が大切にされています。

やってみよう

1. 今の時代に語られたら面白そうな出来事を1つ考えてみよう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ワンポイント 講談や浪曲は、動画サイトで公開されている高座も多くあります。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson
17-18

語りを体験しよう・語り芸の見方

実際に語ってみて、見どころを学びます。

語り芸の見どころ

- 声の高さ・速さの変化
- せりふの演じ分け
- 間の取り方
- 張り扇や三味線の音

何を見て聞けばよいかを知ると、語り芸がぐっと楽しくなります。

ポイント

- 短い場面を声に出して読むだけでも、語りの難しさや面白さを感じられます。
- 登場人物ごとに声を変えてみると、演じ分けの工夫がわかります。

やってみよう

1. 好きな物語の一場面を、声を変えながら読んでみよう。

書いて覚えよう

一般社団法人文化芸術支援協会｜講談・浪曲　個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 19

語り芸の未来

語り芸がこれからどう受け継がれていくかを考えます。

ポイント

- 語り芸は、声とことばだけで物語を伝える、シンプルで奥深い芸能です。
- 新しい聞き手が増えることで、これからも受け継がれていくと考えられます。

やってみよう

1. 語り芸を次の世代に伝えるとしたら、どう紹介したいか書こう。

_____

ワンポイント 次のページからは、実際に見て、体験しながら、語り芸への理解を深めていきましょう。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 20

写真や実物を見てみよう

見て、聞いて、語り芸をもっと身近に感じましょう。

見てみよう

講談の映像　浪曲の音源・映像　張り扇・釈台の写真　寄席の建物　図鑑・資料館の展示

映像や音源で見聞きすると、独特の調子がよくわかります。

ポイント

- 動画サイトなどで、実際の高座の様子を見ることができます。

やってみよう

1. 講談か浪曲の映像を1つ見て、感想を書こう。

書いて覚えよう

個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 21

体験してみよう

実際に語ってみて、語り芸を体で感じましょう。

やってみよう

短い物語を声に出して読む　せりふを演じ分けてみる　張り扇の代わりに手をたたいて調子をとる

多くは、家や学校でも安全に体験できます。

ポイント

- 声を出しすぎてのどが疲れたら、無理をせず休みましょう。

やってみよう

1. この中から1つえらんで、実際に体験してみよう。
2. 体験して気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

Lesson 22

由来と意味をおさらい

学んだことばの由来や意味を確かめましょう。

ことば	由来・意味
講談	調子をつけて物語を語り聞かせる話芸
浪曲	三味線に合わせて節と語りで聞かせる話芸
曲師	浪曲師に合わせて三味線をひく人

ポイント

- 由来を知ると、語り芸をより深く楽しめるようになります。

やってみよう

1. この中から1つえらび、家族に説明してみよう。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 23

地域によるちがい

語り芸には、地域による伝わり方のちがいもあります。

共通すること

日本各地に見られること

1人で語る形
声で物語を伝える

寄席での上演
各地の演芸場

ちがうこと

地域によって形がちがうもの

寄席の数
都市部に多い

演目の伝わり方
師匠から弟子への継承

ポイント

- 「必ずこうだ」と決めつけず、地域や一門によるちがいを大切にしましょう。

やってみよう

1. 自分の地域に寄席や演芸場があるか調べてみよう。

書いて覚えよう

Lesson 24

昔と今をくらべよう

語り芸の楽しみ方は、時代とともに変わってきました。

昔

以前の楽しみ方

寄席やラジオで聞く
生の高座が中心

町の娯楽の1つ
多くの人が親しんだ

今

今の楽しみ方

動画サイトでも見られる
いつでも視聴できる

新しい客層に広がる
若い世代の担い手も

ポイント

- 楽しみ方は変わっても、声で物語を伝えるという本質は受け継がれています。

やってみよう

1. 家族に、講談や浪曲を見聞きしたことがあるか聞いてみよう。

書いて覚えよう

Lesson 25

よくある疑問

講談・浪曲について、よくある疑問を確認しましょう。

よくある疑問

Q. 講談と浪曲は同じものですか？
A. ちがいます。講談は張り扇で調子をとって語る芸、浪曲は三味線に合わせて節と語りで聞かせる芸です。
Q. 難しそうで初めてでも楽しめますか？
A. 物語がわかりやすい演目も多く、初めてでも楽しめるといわれています。

ポイント

- わからないことは、そのままにせず、本や詳しい人に聞いてみましょう。

やってみよう

1. 講談・浪曲について疑問に思うことを1つ書こう。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 26

マナーと注意点

寄席や高座を楽しむときに気をつけたいことがあります。

ポイント

- 上演中は、静かに集中して聞くのがマナーです。
- 写真や動画の撮影は、会場のルールを確認してから行いましょう。
- 演者や演目について話すときは、敬意をもった言い方を心がけましょう。

ワンポイント 初めて寄席に行くときは、会場の決まりごとを事前に調べておくと安心です。

やってみよう

1. 寄席に行くときに気をつけたいことを1つ書こう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

書いて覚えよう

Lesson 27

用語をおさらい

この教材に出てきたことばを確認しよう。

講談のことば

- ☐ **張り扇**
  釈台をたたき調子をとる扇子
- ☐ **釈台**
  講談師の前に置く小さな机
- ☐ **軍記物**
  合戦や武将をえがく物語

浪曲のことば

- ☐ **節**
  メロディーで歌う部分
- ☐ **啖呵**
  せりふで語る部分
- ☐ **曲師**
  三味線をひく人

ワンポイント 覚えたことばに✓をつけよう。ことばを知ると、語り芸がもっと身近に感じられます。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 28

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

張り扇	ア. メロディーで歌う部分
釈台	イ. 釈台をたたき調子をとる扇子
曲師	ウ. せりふで語る部分
節	エ. 浪曲師に合わせて三味線をひく人
啖呵	オ. 講談師の前に置く小さな机

2. 正しいほうに○をつけよう

1. 講談は張り扇で調子をとりながら語る →（ 正しい ／ まちがい ）
2. 浪曲は三味線の伴奏をともなう →（ 正しい ／ まちがい ）

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 29

ふり返りチェック

できるようになったことを確かめよう。

☐	講談と浪曲のちがいを説明できる	道具・語り方のちがい
☐	講談や浪曲で使う道具を1つ以上言える	張り扇・釈台・三味線など
☐	講談と落語のちがいを説明できる	道具・物語の中心のちがい
☐	語り芸を見聞きする体験を1つした	動画・音読など

ポイント

- ✓がつかなかった項目は、もう一度そのページを読み返してみましょう。

書いて覚えよう

 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 30

家族や友だちに話してみよう

学んだ語り芸の文化を、自分のことばで伝えてみよう。

伝えたい語り芸	
由来や意味	
自分が感じたこと	
相手に聞いてみたいこと	

ポイント

- 聞いてもらう相手に合わせて、ことばを選んでみましょう。

書いて覚えよう

Lesson 31

英語で紹介してみよう

講談・浪曲を、短い英語でも紹介できるようにしよう。

講談

kōdan storytelling

調子をつけて物語を語り聞かせる話芸

浪曲

rōkyoku

三味線に合わせて節と語りで聞かせる話芸



Emma
講談を英語で紹介するとき、どう説明する？



Ken
「1人で物語を演じ分ける語り芸」だと伝わりやすいよ。

ポイント

- すべてを直訳しようとせず、意味を簡単なことばで伝えることが大切です。

やってみよう

1. 講談か浪曲のどちらかを、短い英語で紹介してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 32

もっと知りたい人へ

語り芸の世界は、ここからどんどん広がります。

調べる方法

図書館で
講談・浪曲の本を借りる

動画で
実際の高座の映像を見る

寄席へ
生の語り芸を聞きに行く

次に学びたいテーマ

落語
座布団の上で演じる話芸

能・歌舞伎
舞台で演じる伝統芸能

三味線
語り芸を支える楽器

ポイント

- この教材の次は「落語」。座布団の上で演じる話芸を、さらにくわしく学んでいきます。

書いて覚えよう

Lesson 33

学んだことをまとめよう

この教材で学んだことを、自分の言葉でまとめよう。

まとめ　自分の言葉で書こう

1. 講談・浪曲とは、どんな芸能だと思いますか。＿＿＿＿＿＿＿＿
2. 学んだ中でいちばん印象に残ったことは？＿＿＿＿＿＿＿＿
3. これから知りたいことは？＿＿＿＿＿＿＿＿

講談・浪曲ミッションカード

MISSION 1
講談か浪曲の映像を1つ見る

MISSION 2
家族に語り芸を見聞きしたことがあるか聞く

MISSION 3
好きな物語の一場面を声に出して読んでみる

MISSION 4
講談と浪曲のちがいを友だちに紹介する

できたミッションに✓をつけよう：　☐1　☐2　☐3　☐4

書いて覚えよう

個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

Lesson 34

講談・浪曲チャレンジ

教室の外でも、語り芸はすぐに見つけられます。

見つけよう

身近にある**語り芸の映像や音源**を1つ探す

聞いてみよう

家族に**寄席や高座**について質問する

伝えよう

好きな語り芸を**友だちや家族に紹介**する

こたえ

L28 張り扇→イ 釈台→オ 曲師→エ 節→ア 啖呵→ウ　2. 正しい ／ まちがい

L33 （例）講談・浪曲とは、1人の演者が声とことばだけで物語を伝える日本の語り芸のこと。

書いて覚えよう

講談・浪曲（Season 4 ｜ No.39）
発行：一般社団法人文化芸術支援協会
この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。
有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。
くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。